

□ 要請番号 (JL01225A36)



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
フィリピン	G182 小学校教育	20~45歳のみ	個別	新規	2年	・2025/3・2026/1・2026/2

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

国家経済開発庁ボランティア調整局

2) 配属機関名 (日本語)

マアシン中央小学校

3) 任地 (イロイロ州マアシン町) JICA事務所の所在地 (マニラ首都圏マカティ)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (飛行機+バスで約 2.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

イロイロ国際空港から北へ車で30分程の距離にある、全校生徒(幼稚園~小学6年生)約1,200名のマアシン中央小学校。教員数は52名。幼稚園3クラス、小学1~4年生5クラス、小学5~6年生6クラスに加え、障害児・者を対象とした特別支援センターを有している。特別支援センターには2013年~2020年まで3代のJICA海外協力隊(職種:障害児・者支援)が派遣されており、学内外でJICA海外協力隊の存在は広く知られている。フィリピンでは幼稚園~小学3年生では学級担任が全教科を受け持ち、小学4~6年生では科目専攻の教員が各教科を分担して教えるのが一般的で、同校でも小学校4~6年生の算数担当教員5名(45~53歳、教員歴19~29年)、理科担当教員3名(51~53歳、教員歴16~26年)が勤務している。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

フィリピンはコロナ感染拡大防止のため2020年3月から全教育機関での対面授業が厳しく制限され、同校児童も約2.5年もの間、学校への登校を禁止されていた。その間、教員は学習プリント配布して家庭学習を促していたが、児童は教科書を読む習慣すらも薄れ、十分な質の教育を提供できない時期が長く続いていた。そして対面授業が段階的に再開された2022年10月に数的能力テスト:Enhanced-Regional Unified Numeracy Testを実施したところ、同校4~5年生児童の約30%が学年相応の基礎学力を習得できていない実情が判明した。同校ではこの事態を深刻に受け止め、特に理数科の担当教員らによる上記30%に当たる児童への早急な介入と対策が必要と考え、これまで特別支援センターで障害児・者支援へ貢献してきたボランティア事業に協力を求め、今般「小学校教育」でのJICA海外協力隊を強く要請するに至った。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

算数と理科を担当する同僚教員と以下活動を行い、対象児童の理科と算数の学力を向上を目指す。

- 1,小学4~5年生の補習授業の補助
 - 2,日本の算数と理科の授業例やグッドプラクティスの紹介
 - 3,理科と数学の教材開発、及び教材を使った授業でのデモンストレーション
 - 4,楽しく理科を学ぶことができる実験クラスを企画、実践する
- その他、学校行事の補佐、イロイロ州内の他JICA海外協力隊との連携の可能性もある。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

プロジェクター、事務機器

理科教材(人体模型、顕微鏡、じょうご、アルコールランプ、メスシリンダー、温湿度計、コンパス等)

4) 配属先同僚及び活動対象者

配属先同僚:

マアシン中央小学校教員52名。内、カウンターパート2名(40代男性/算数担当/教員歴24年、50代男性/理科担当/教員歴27年)

活動対象者:上述テストにて基礎学力を十分に満たせていないとされた児童約100名、四年生の理数科教員2名、五年生の理数科教員2名

5) 活動使用言語

英語

6) 生活使用言語

その他

7) 選考指定言語

英語(レベル:C)

【資格条件等】

[免許]：(小学校教諭)

[学歴]：(大卒) 教育学 備考：同僚とのバランス

[性別]：() 備考：

[経験]：(教員経験) 2年以上 備考：実務経験に基づく助言を要する

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：(熱帯モンスーン気候) 気温：(25~35°C位) [電気]：(安定)

[通信]：(インターネット可 電話可) [水道]：(安定)

【特記事項】

同小学校には2013年10月~2020年3月の間に3代の「障害児・者支援」隊員が派遣されていた